

教育開発支援センター
構成員紹介

センター長
田中俊也（文学部教授）

昨年10月にセンター長に就任して以来、当センターをCTL（シーティーエル）と呼ぼう、と声をかけてきましたが、徐々に定着してきた感があります。ここでは高等教育機関としての大学での「教え・学び」に関わるすべてのことを扱います。関大CTLが世界スタンダードになっていくよう、専任教員を中心に関係者全員で努力を続けます。皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。



三浦真琴（教育推進部教授）

勉強ではなく、学習、できることなら楽習を学生のハビトゥスにしたいと願っています。そのために教師集団の一員として何ができるのか、模索しています。是非、意見やアイデアの創出・交換・共有をしましょう。



副センター長
山本敏幸（教育推進部教授）

CTLの副センター長として、ICTを活用した教育の普及を中心に活動しています。

本年度は、ICT活用に関するプロジェクトを二つ担当しています。全学ICT活用推進会議では、本学のeラーニング、eポートフォリオの普及と対外的機関との対応方針を中心に、総論的な視点からの運営を心がけています。もうひとつのICT活用プロジェクトでは、既に学内に導入されている教育支援用ICTの活用普及活動をランチョンセミナー等でおこなっています。ご参加をお待ちしております。



須長一幸（教育推進部准教授）

私は全学共通教育のコーディネーターを担当しており、特に「スタディスキルゼミ」のデザインに力を入れています。

スタディスキルゼミは、他学部の学生と積極的なコミュニケーションができる場として成長を続けています。

13学部を擁する総合大学である本学で、学部を超えて全学の学生が交流できたら、本学のもつ「多様性」は大きな武器になると思いませんか？



岩崎千晶（教育推進部助教）

所属当初は、TSネットワーク担当であった私ですが、現在ではICT活用授業の普及活動プロジェクト、ライティング支援プロジェクト、授業コンサルテーション、全学共通科目の見直しなど、幅広い分野を担当しております。昨年度は「初年次教育におけるアクティブ・ラーニング型授業デザインブック」を発刊しました。CTLにて配布しております!! ポジティブに日々精進也。



萩原恒夫（授業支援グループ長）

「授業支援ステーション」では、授業前後の教員を補助する学生スタッフ「授業支援SA」が授業の質的向上を目指して日々活躍しています。また、今年度から障がいのある学生に対する修学支援チームを立ち上げました。ますます教員・学生へのサポートを充実させていく「授業支援ステーション」をぜひご活用ください。

■専門委員 牧野由香里（総合情報学部教授） 中澤 務（文学部教授）

From CTL事務局

関西大学は、これまで支援を希望する学生に対して、各学部・研究科の窓口が個別に対応していました。2012年4月、障がいのある人もともに学べる大学を目指して、障がいのある学生に対する修学支援についての窓口として、「障がいのある学生に対する修学支援チーム」を設置し、全学的な修学支援体制を整えました。

同チームには、専属のコーディネーター、教職員に加え、点訳やノートテイク、パソコンテイクなどの事前研修を受講した学生支援スタッフが配置され、学内の関連組織と支援に関する連絡・調整を行なながら、障がいのある学生に対して組織的

なサポートを行っています。

私は、昨年まではボランティアセンター職員として、ボランティア活動を広めるという目的を持った学生スタッフの育成支援業務を行っていたのですが、この4月からは、障がいのある学生に対する修学支援業務にかかわらせていただくこととなりました。この支援活動がサポートを受ける側の学生の修学を支えるのみならず、サポートする側の学生にとっても大いなる学びとなっていることを日々実感しています。

私自身20数年前に教職を目指して学んでいた頃、学科の取り組みとして、障がいのある子どもさんたちと過ごす時間を持つことがあったことから、ノーマライゼーションを

当たり前のこととして感じていました。そういった自分自身の背景もあり、今この業務にかかわらせていただけることに不思議な縁を感じています。

障がいのある学生に対する修学支援においては、ICTの活用が不可欠であり、また、障がいのある学生の授業担任者の先生方と話し合いながら、教材を考え、伝え方を工夫するこの修学支援業務自体が、CTLで行われているFD活動のひとつ形であるのではないかと考えています。

障がいのある学生に対する修学支援チームの活動の理解者がさらに増え、本学におけるFD活動の拡がりに少しでも寄与できればと考えています。

(典)